

《キーワード》 口腔感染症、口腔バイオフィルム、嫌気培養、同定法、PCR法

《担当者名》 永野 恵司 宮川 博史

【概要】

微生物は感染により様々な疾患を引き起こし、特に、齲蝕や歯周疾患などの口腔感染症は、常在細菌叢により形成される口腔バイオフィルムが原因となる混合内因感染であることが知られている。これら口腔バイオフィルムを形成する細菌種の多くは通性嫌気性、偏性嫌気性細菌であり、難培養性の細菌種も多い。従って、口腔バイオフィルム細菌叢を把握するためには、嫌気性菌の培養法やPCR等を用いた遺伝学的手法を習得し、口腔感染症と構成細菌叢との関連を理解することが重要である。

本特論では、口腔細菌叢の特徴、病原性などを学び、その分類や検出法について理解を深めるとともに、その手法について習得する。

【学習目標】

1. 口腔バイオフィルムの感染症における役割について説明できる。
2. 培養法による細菌叢の解析について説明できる。
3. 細菌の生物学的性状による同定法を説明できる。
4. PCR法を用いた同定法や定量法を説明できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	口腔感染症における口腔バイオフィルムの病原性		永野 恵司 宮川 博史
2	実験的なバイオフィルムの形成とその解析		永野 恵司 宮川 博史
3	嫌気培養法による口腔バイオフィルム細菌叢の分離		永野 恵司 宮川 博史
4	分離した細菌種の生物学的性状検査		永野 恵司 宮川 博史
5	PCR法を用いた細菌の同定法・定量法		永野 恵司 宮川 博史

【評価方法】

出席状況、提出物

【備考】

教科書 : 授業中に指示する。

参考書 : 授業中に指示する。

【学習の準備】

提示した到達目標に合わせて、関連資料の収集・文献講読をしておくことが望ましい。